

令和5年度 高知県・高知市 知事・市長及び教育長連携会議

高知県教育委員会

説明資料

- 学力向上の取組の成果と課題、今後の取組について（P1～）
- 不登校対策について（P17～）
- 保幼小連携・接続の取組について（P22）

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 実施日 令和5年4月18日（火）

英語「話すこと」調査：令和5年4月18日（火）～5月26日（金）

(3) 調査内容

- ◇ 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ◇ 教科に関する調査は、国語、算数・数学、英語（中学校のみ）を出題

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

- ◇ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施

(4) 県内（公立学校）の参加状況

- ◇ 参加学校数

小学校

市町村（学校組合）立小学校	義務教育学校	特別支援学校（小学部）	合計
178校	4校	2校	184校

中学校

市町村（学校組合）立中学校、 県立中学校	義務教育学校	特別支援学校（中学部）	合計
92校	4校	2校	98校

<参加校数>

・小中学校	270校
・義務教育学校	4校
・特別支援学校	3校
計	277校

※義務教育学校は、小・中学校の義務教育を9年間の一貫したカリキュラムで運営する学校であり、小・中ともに実施する学校が4校であるため、合計が4校となっている。

※特別支援学校は、1校の中に小学部や中学部があり、小学部・中学部ともに実施する学校が1校、小学部のみ実施する学校及び中学部のみ実施する学校が各1校であるため、合計が3校となっている。

- ◇ 小学校解答（回答）児童数

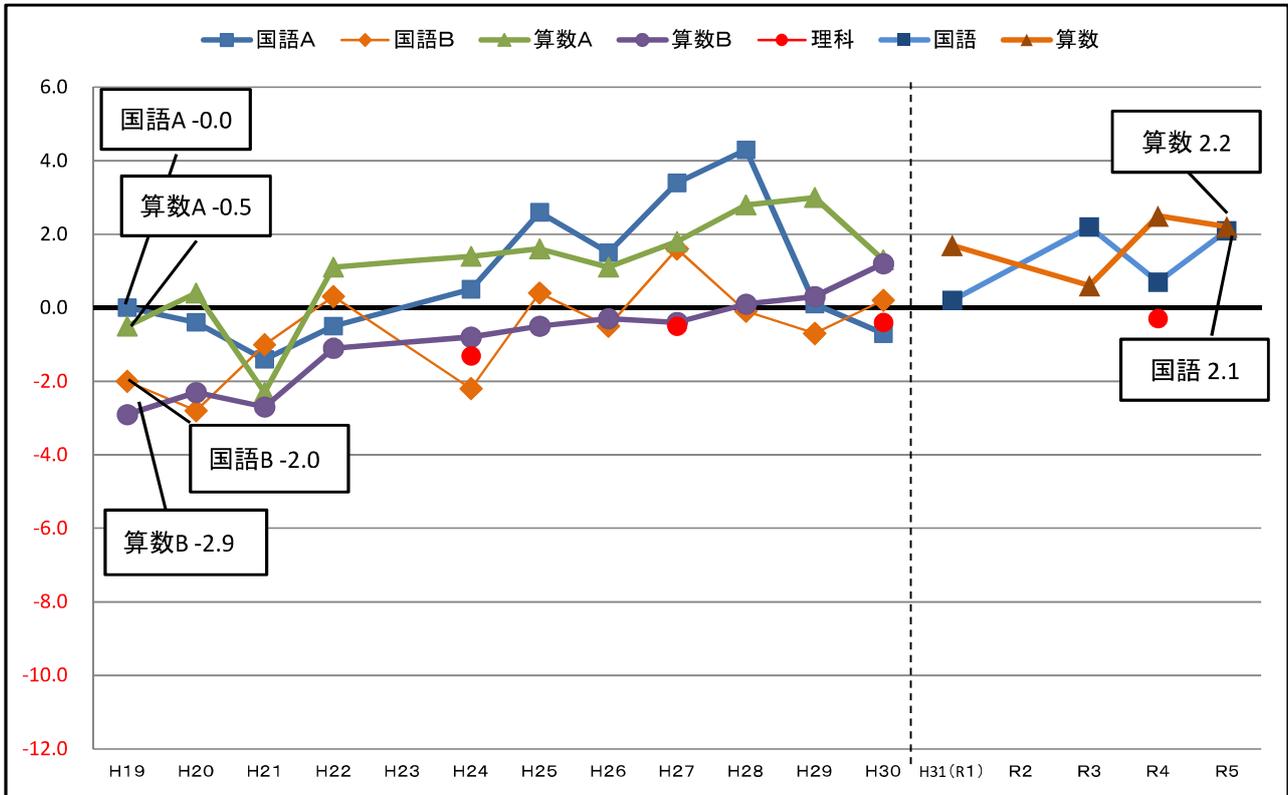
国語	4,690名
算数	4,687名
児童質問紙	4,805名

- ◇ 中学校解答（回答）生徒数

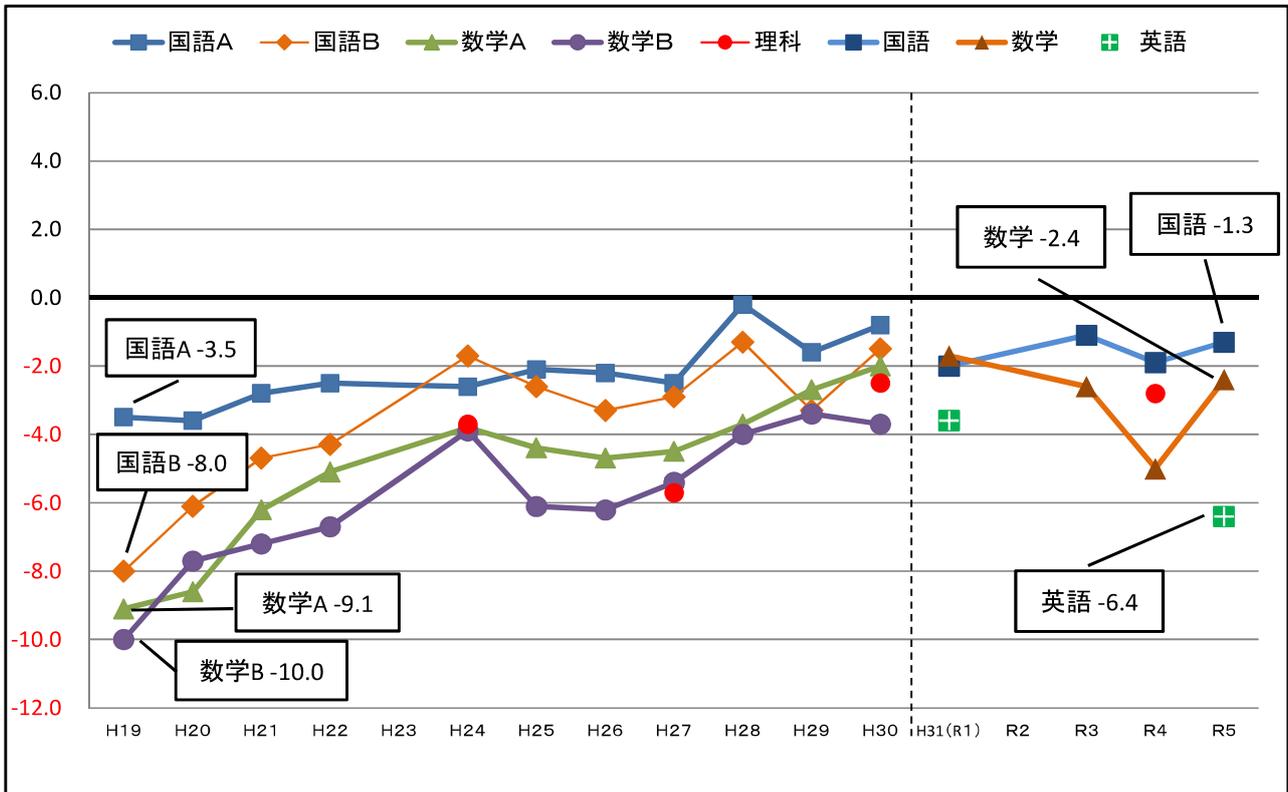
国語	3,966名
数学	3,967名
英語	3,967名
生徒質問紙	4,003名

平成19年～令和5年度 全国平均正答率との差(高知県平均正答率)

小学校調査



中学校調査



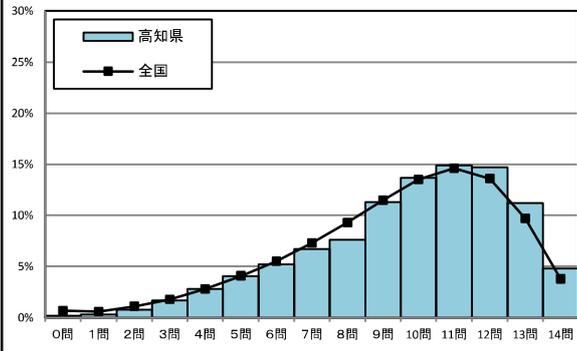
※縦軸は全国平均正答率との差をポイントで示している。(平成23年度の全国値はない。)
 ※平成31年度(令和元年度)よりABが統合。
 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査を中止している。

各教科に関する学力の状況

〔小学校国語〕

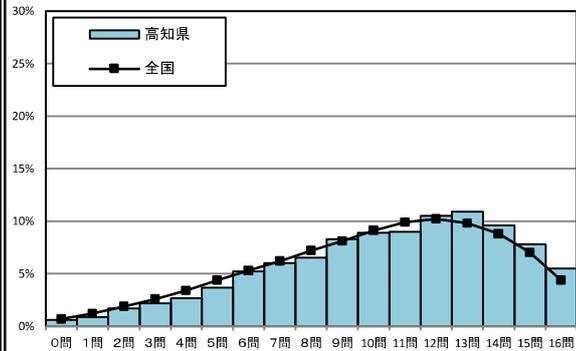
正答数分布の状況

国語	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,690	9.7	69.3	10.0	2.8
全国	964,177	9.4	67.2	10.0	2.9

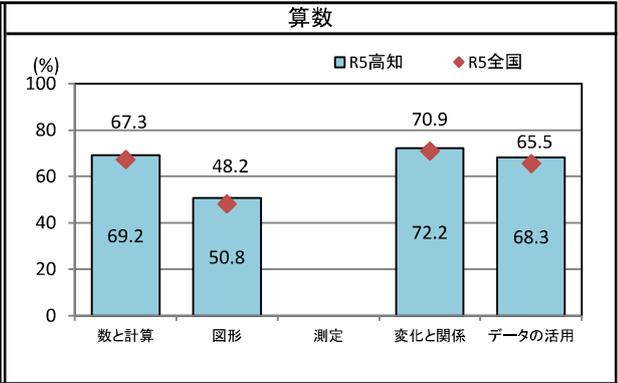
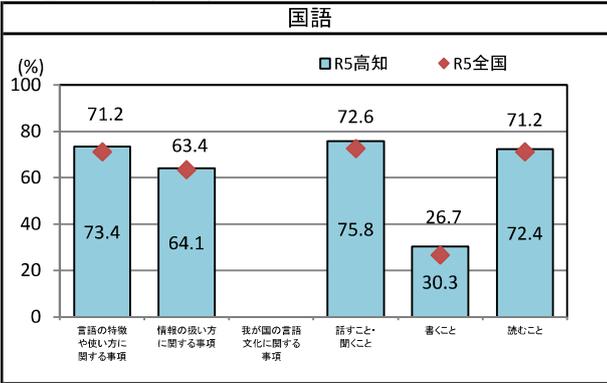


〔小学校算数〕

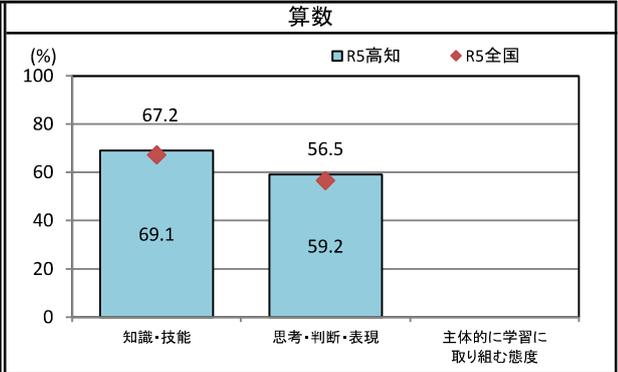
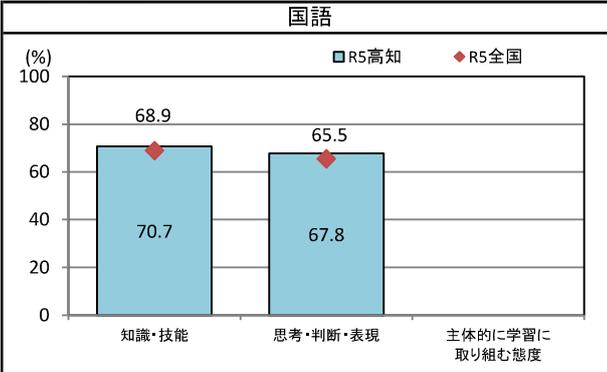
算数	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	4,687	10.4	64.7	11.0	3.7
全国	964,350	10.0	62.5	11.0	3.8



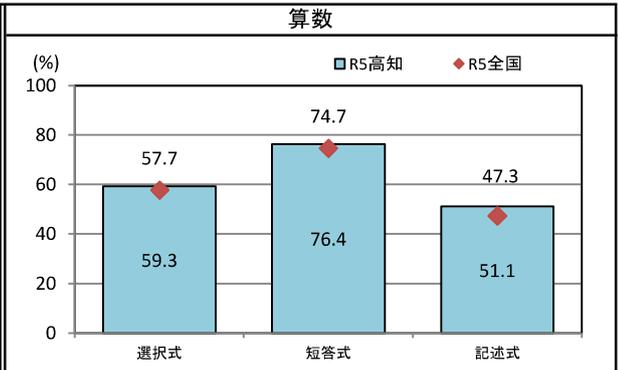
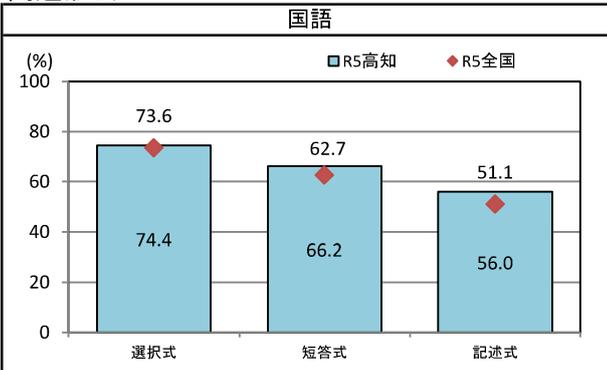
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

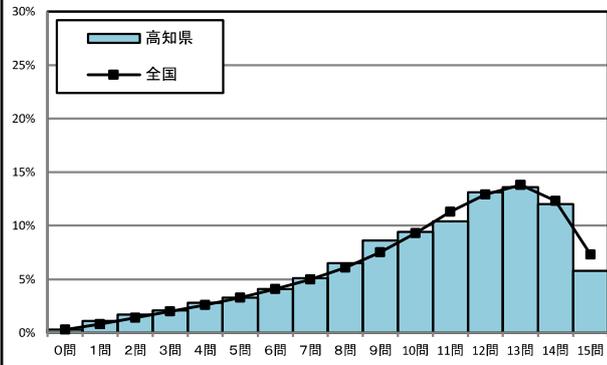


各教科に関する学力の状況

〔中学校国語〕

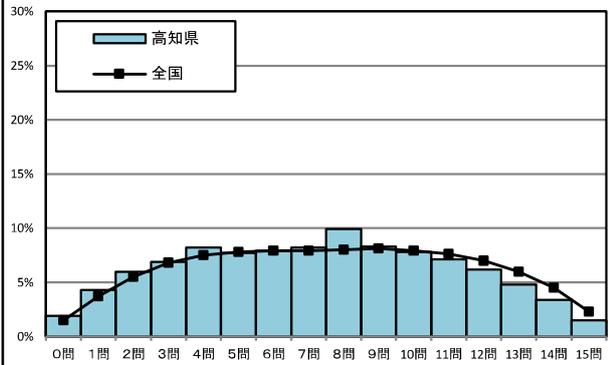
正答数分布の状況

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,966	10.3	68.5	11.0	3.4
全国	892,738	10.5	69.8	11.0	3.4

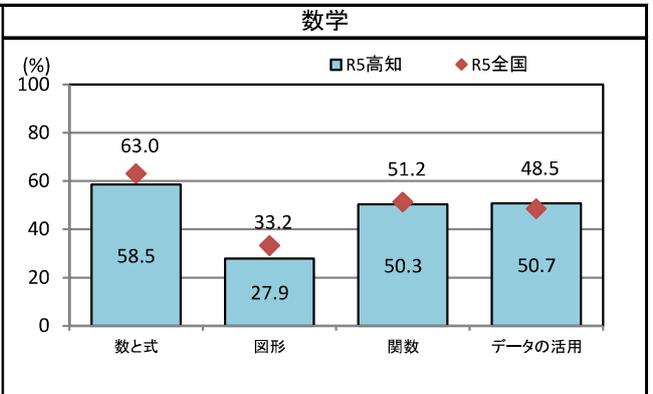
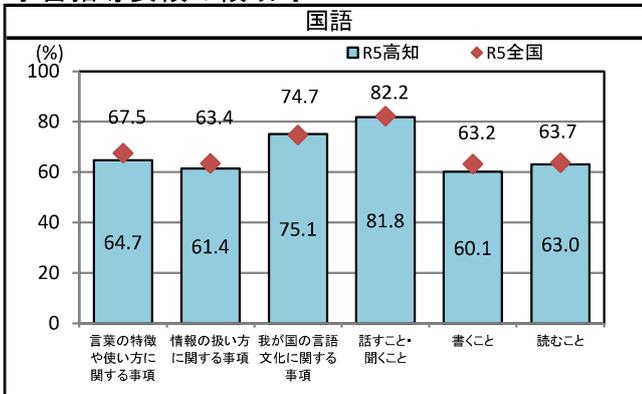


〔中学校数学〕

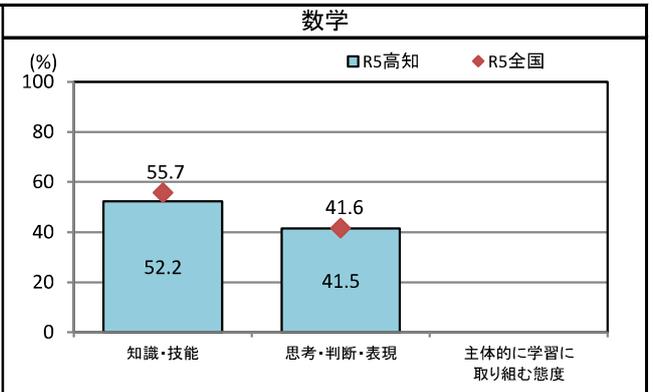
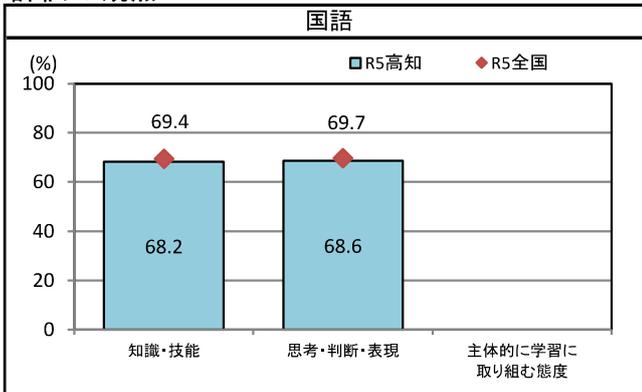
数学	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,967	7.3	48.6	7.0	3.8
全国	893,114	7.6	51.0	8.0	3.9



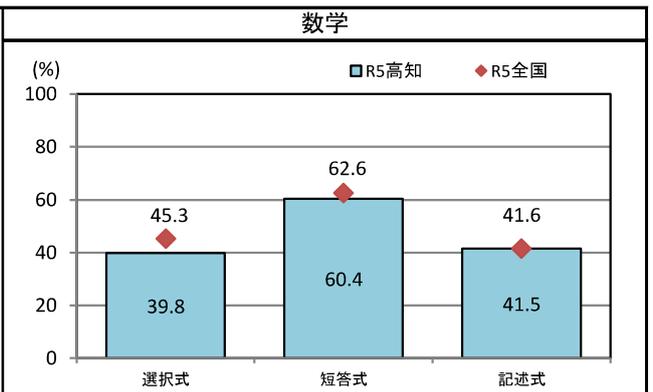
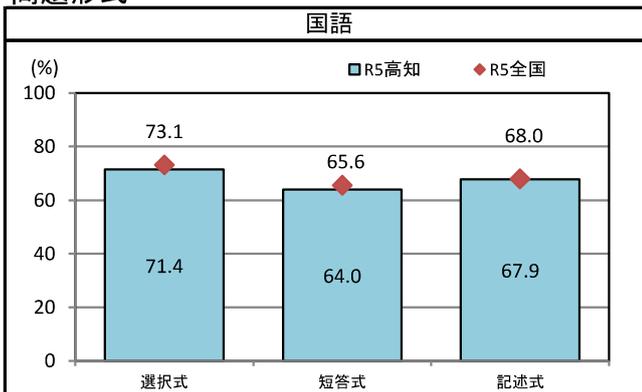
学習指導要領の領域等



評価の観点



問題形式

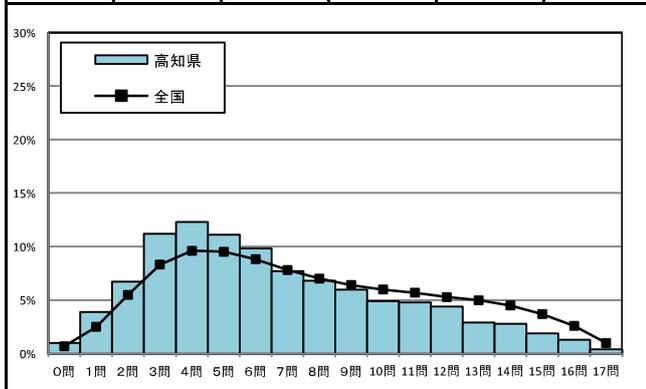


各教科に関する学力の状況

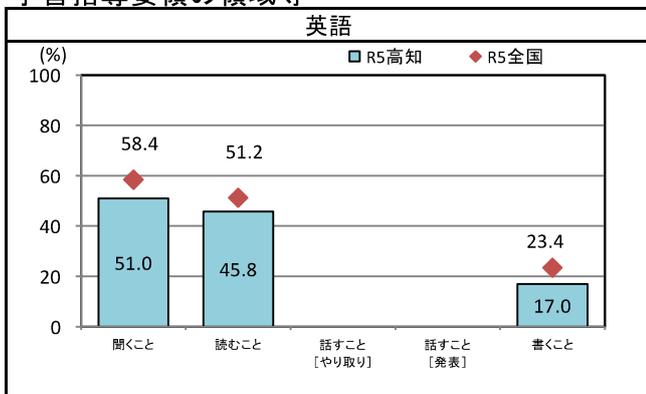
〔中学校英語〕

正答数分布の状況

英語	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
高知県	3,967	6.7	39.2	6.0	3.8
全国	893,528	7.7	45.6	7.0	4.2



学習指導要領の領域等

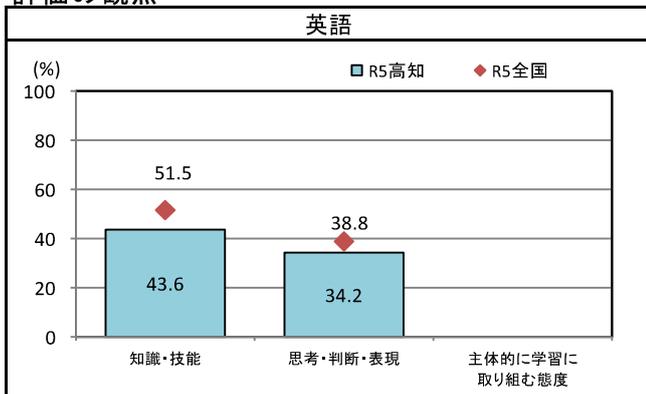


領域別全国との差 (H31・R5比較)

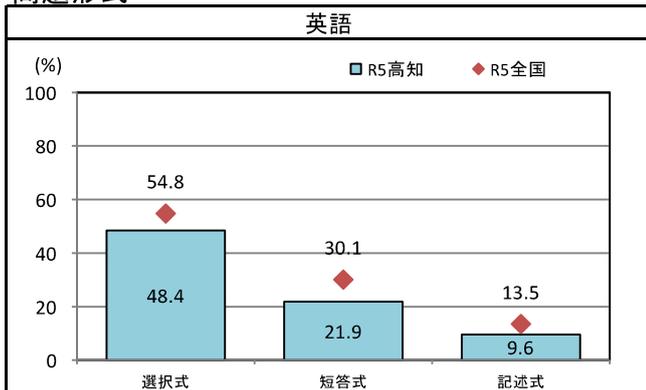
H31	領域	高知県	全国	差
	聞くこと	66.6	67.9	-1.3
	読むこと	53.5	55.6	-2.1
書くこと	39.1	45.8	-6.7	

R5	領域	高知県	全国	差
	聞くこと	51.0	58.4	-7.4
	読むこと	45.8	51.2	-5.4
書くこと	17.0	23.4	-6.4	

評価の観点



問題形式



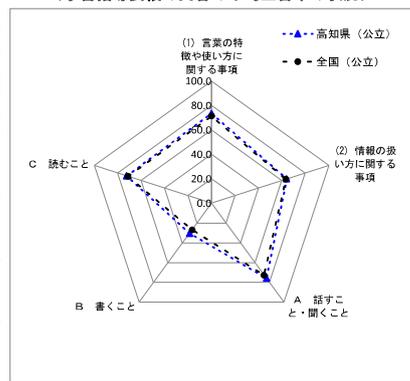
・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立)	全国(公立)	対象児童数	高知県(公立)	全国(公立)
	184	18,618		4,690	964,177

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体					
14					
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	73.4	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	64.1	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	75.8	72.6
		B 書くこと	1	30.3	26.7
		C 読むこと	3	72.4	71.2
	評価の観点	知識・技能	7	70.7	68.9
思考・判断・表現		7	67.8	65.5	
主体的に学習に取り組む態度		0			
問題形式	選択式	9	74.4	73.6	
	短答式	2	66.2	62.7	
	記述式	3	56.0	51.1	

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等				高知県(公立)	全国(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項			A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5・6 ア				○	67.2	64.7	0.6	1.8
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					○	30.3	26.7	5.4	7.1
1三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ				○	58.1	52.8	2.1	4.8
1三 (1) ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)		5・6 エ				○	74.3	72.6	3.8	6.7
1三 (2) イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 ウ				○	94.0	93.1	0.2	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6 カ				○	81.0	79.8	0.8	2.0
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる					○	89.4	90.0	0.3	1.2
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					○	67.2	67.4	0.3	1.4
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したのとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ				○	61.0	62.0	0.4	1.6
2四	資料を読み、運動と食事の面方について分かったことをもとに、自分できそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる					○	60.5	56.2	5.6	8.5
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる					○	75.2	73.6	1.2	3.7
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する		3・4 エ				○	75.1	74.0	1.4	4.1
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5・6 エ				○	77.1	70.2	8.4	14.3
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6 キ				○	59.4	57.6	3.9	9.5

・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

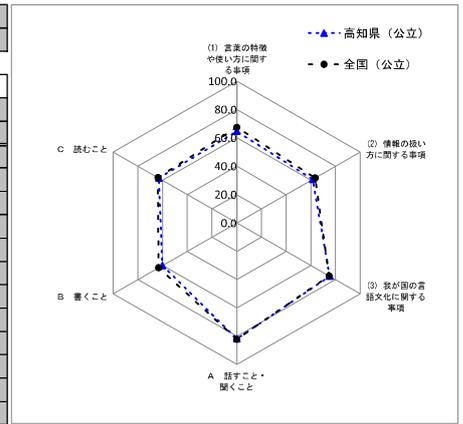
集計結果

対象学校数	高知県 (公立)	全国 (公立)	対象生徒数	高知県 (公立)	全国 (公立)
	98	9,336		3,966	892,738

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)	
			高知県 (公立)	全国 (公立)
全体				
		15	68.5	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.7	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	61.4	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.1	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	81.8	82.2
		B 書くこと	60.1	63.2
		C 読むこと	63.0	63.7
評価の観点	知識・技能	7	68.2	69.4
	思考・判断・表現	9	68.6	69.7
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	7	71.4	73.1
	短答式	4	64.0	65.6
	記述式	4	67.9	68.0

※「学習指導要領の内容」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があります。それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合があります。

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率 (%)		無解答率 (%)		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県 (公立)	全国 (公立)	高知県 (公立)	全国 (公立)	
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと											
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものと適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる				1ア				○		○				84.4	87.5	0.0	0.1
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		1ア					○			○				64.3	65.1	0.0	0.2
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したものと適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる				1エ			○			○				76.7	76.6	0.1	0.2
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				1エ			○			○				84.4	82.5	8.3	10.8
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1ウ						○			○				89.1	91.1	0.1	0.2
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものと適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる							○			○				62.6	63.0	0.2	0.4
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的部分と付加的部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる				1ア			○			○				70.2	74.2	0.2	0.3
2四	自分がこれからのように本を読んでいきたいかについて、内容のまとまりで文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		2エ					○			○				67.8	67.5	3.6	3.9
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				1エ			○			○				52.4	54.3	0.4	0.6
3二	漢字を書く (おし量って)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ						○			○				40.2	43.9	8.7	10.7
3三	『「判じ絵」とは何か』と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		2ア					○			○				58.4	61.8	1.6	2.1
3四	『「判じ絵」の解説の面白さ』と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○			○				67.9	72.1	8.9	10.2
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる				1ア			○			○				83.8	82.5	3.1	3.6
4二	原文中の語句に対応する言葉現代語で書かれた文章から抜き出す (いと)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる				2イ			○			○				73.6	74.1	4.7	4.8
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる							○			○				51.3	50.0	18.2	20.7

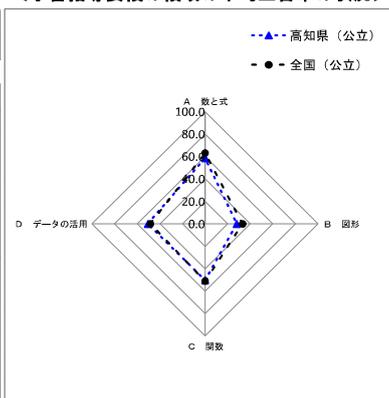
以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	高知県(公立)	全国(公立)
	98	9,337		3,967	893,114

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			高知県(公立)	全国(公立)	
全体			15	48.6	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	58.5	63.0	
	B 図形	3	27.9	33.2	
	C 関数	4	50.3	51.2	
	D データの活用	3	50.7	48.5	
評価の観点	知識・技能	10	52.2	55.7	
	思考・判断・表現	5	41.5	41.6	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	39.8	45.3	
	短答式	6	60.4	62.6	
	記述式	5	41.5	41.6	

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
1	1, 5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる					○		○			39.6	46.1	0.1	0.1	
2	$12(x/4 + y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる				○			○			73.7	80.5	3.7	4.0	
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる				○			○			24.8	30.4	0.5	0.8	
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる				○			○			38.3	42.8	0.2	0.5	
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				○			○			40.4	46.1	7.2	11.0	
6(1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかけられる数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる				○			○			86.2	88.9	2.7	2.4	
6(2)	はじめの数にかけられる数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成させる	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる				○			○			55.5	58.8	9.2	10.6	
6(3)	はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる				○			○			37.5	40.9	18.7	24.7	
7(1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる				○			○			72.9	65.7	3.5	5.6	
7(2)	「2006年～2020年の休業日は、1991年～2005年の休業日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				○			○			38.8	33.6	15.4	22.8	
8(1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる				○			○			56.9	57.5	6.1	8.6	
8(2)	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				○			○			56.6	61.7	0.8	1.1	
8(3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				○			○			49.4	42.8	8.0	13.2	
9(1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる				○			○			26.4	32.1	22.1	24.7	
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる				○			○			32.4	37.0	13.4	14.2	

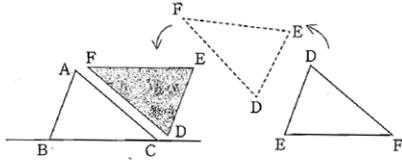
令和5年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 中学校数学

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	9 (1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	26.4	-5.7

方法1

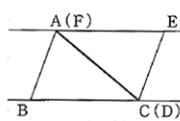
① $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。

図2



② 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。

図3



(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ です。

図6

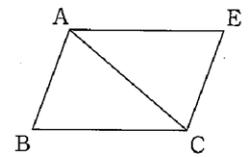


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \cong \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

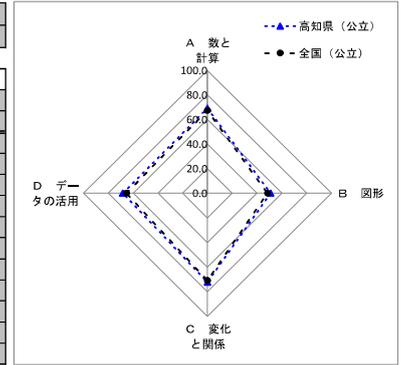
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県（公立） 184	全国（公立） 18,615	対象児童数	高知県（公立） 4,687	全国（公立） 964,350
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			高知県（公立）	全国（公立）	
全体		16	64.7	62.5	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	69.2	67.3	
	B 図形	4	50.8	48.2	
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	72.2	70.9	
評価の観点	D データの活用	3	68.3	65.5	
	知識・技能	9	69.1	67.2	
	思考・判断・表現	7	59.2	56.5	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	5	59.3	57.7	
	短答式	7	76.4	74.7	
	記述式	4	51.1	47.3	

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれ区分について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



問題別集計結果

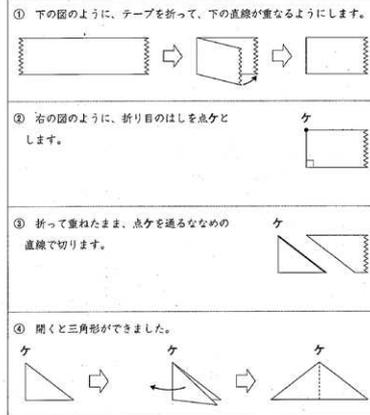
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県（公立）	全国（公立）	高知県（公立）	全国（公立）
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4 (1) 7 (7)	○					○	94.2	93.5	0.4	0.8	
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5 (1) 4 (7)	○					○	88.8	88.5	0.5	1.0	
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5 (1) 4 (7) 5 (2) 4 (7)	○					○	61.5	55.5	2.9	3.4	
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3 (3) 7 (7)				○					○	84.1	80.8	0.7	1.2	
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる				4 (1) 7 (4)	○					○	63.6	59.8	0.2	0.7	
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてきた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる				2 (1) 7 (4) 4 (1) 7 (7)	○					○	88.3	87.2	1.6	2.9	
2 (3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる				3 (1) 7 (7) 5 (1) 7 (4)	○					○	27.4	24.9	2.1	3.7	
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分けることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる				5 (3) 4 (7)	○					○	23.7	20.8	2.3	4.0	
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4 (6) 7 (7)				○					○	71.0	70.3	0.7	1.4	
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3 (5) 7 (7) 4 (4) 7 (2) 7 (7)				○					○	57.5	56.7	2.7	4.0	
3 (3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4 (6) 7 (7) 4 (7) 7 (7)				○					○	76.3	72.4	1.6	2.5	
3 (4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかどうかをみる	3 (4) 4 (7) 4 (3) 7 (7)				○					○	50.1	47.6	2.2	3.9	
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				5 (3) 7 (4)	○					○	44.3	46.0	1.3	2.4	
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4 (2) 7 (4)			3 (1) 7 (7)	○					○	76.1	75.7	2.8	4.3	
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる				3 (1) 7 (4) 1 (7)	○					○	61.6	56.2	9.3	13.8	
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの本拠となる数の組み合わせを選ぶ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる				4 (1) 7 (7)	○					○	67.4	64.6	3.0	4.9	

令和5年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 小学校算数

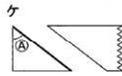
問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	27.4	+2.5

(3) えいたさんたちは、下のようにつくり方で三角形をつくります。

【えいたさんのつくり方】

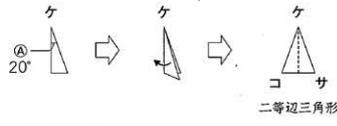


ゆいなさんとわたるさんは、【えいたさんのつくり方】の③の図で、下の④の角の大きさをそれぞれちがう大きさにしました。



ゆいな

私は、④の角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。



わたる

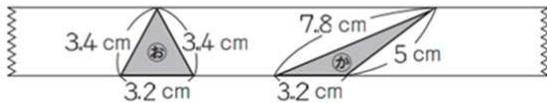
私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、④の角の大きさをゆいなさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、④の角の大きさを何度にするればよいですか。
答えを書きましょう。

令和5年度全国学力・学習状況調査 課題がみられた問題 小学校算数

問題形式	問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率 (%)	
				高知県	全国正答率との差
記述	2 (4)	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	23.7	+2.9

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

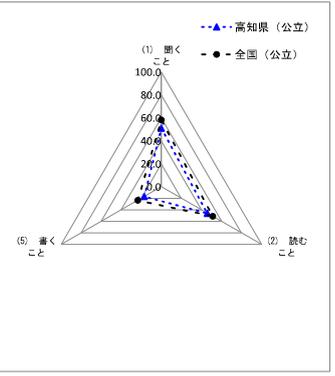
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	高知県(公立)	全国(公立)	対象生徒数	高知県(公立)	全国(公立)
	98	9,335		3,967	893,528

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)	
			高知県(公立)	全国(公立)
全体				
		17	39.2	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	51.0	58.4
	(2) 読むこと	6	45.8	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0		
	(4) 話すこと [発表]	0		
	(5) 書くこと	5	17.0	23.4
評価の観点	知識・技能	9	43.6	51.5
	思考・判断・表現	8	34.2	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	12	48.4	54.8
	短答式	3	21.9	30.1
	記述式	2	9.6	13.5

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

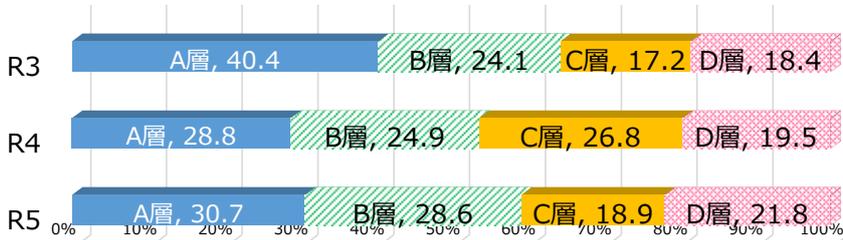
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと [やり取り]	(4) 話すこと [発表]	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	高知県(公立)	全国(公立)	高知県(公立)	全国(公立)
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			71.1	79.0	0.1	0.1
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			55.1	64.4	0.1	0.2
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○			38.9	49.8	0.1	0.2
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			55.1	61.1	0.1	0.2
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			36.3	41.2	0.1	0.2
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			49.4	54.8	0.2	0.4
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○			○			49.7	56.0	0.2	0.3
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	○					○			○			57.5	64.5	0.2	0.3
6	友達からのメールを読み、相手を示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○			31.2	35.9	0.4	0.3
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○			○			54.6	59.8	0.2	0.3
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	イ					○			○			31.2	34.7	0.5	0.7
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○			50.9	56.1	0.6	0.8
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる				ウ		○			○			14.4	19.5	22.5	29.3
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			29.9	40.4	6.6	6.6
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			13.7	20.9	10.2	10.9
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる				ア		○			○			22.1	29.0	22.1	24.5
10	学校生活 (行事や部活動など) の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる				イ		○			○			4.8	7.4	17.1	21.4

全国学力・学習状況調査 正答数分布4階層<R3-R5>

※階層は、全国の四分位の区切りに基づいている。例：R5小国の場合【A層(12~14問) B層(10~11問) C層(8~9問) D層(0~7問)】

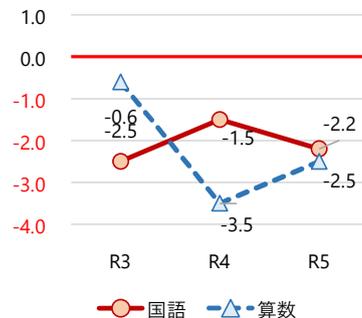
小学校 国語・算数

R3~5 小学校国語 (高知県)

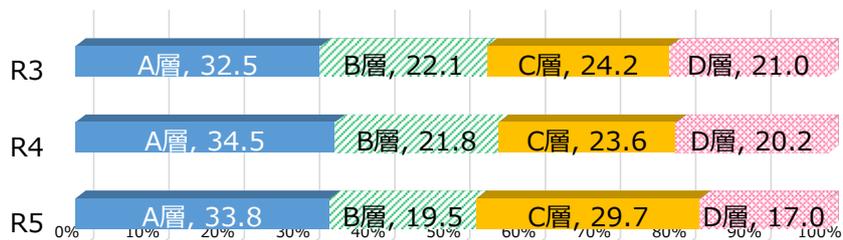


D層経年【小学校】

(全国値との差)

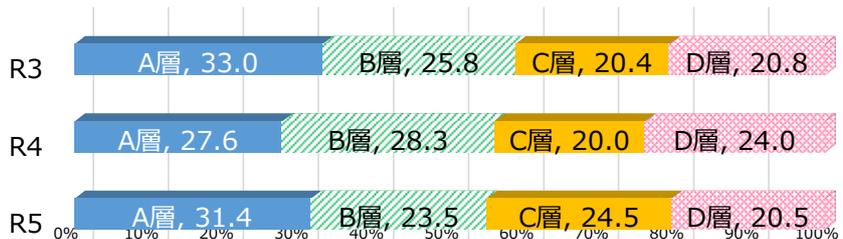


R3~5 小学校算数 (高知県)



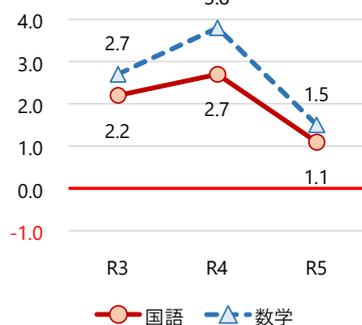
中学校 国語・数学

R3~5 中学校国語 (高知県)

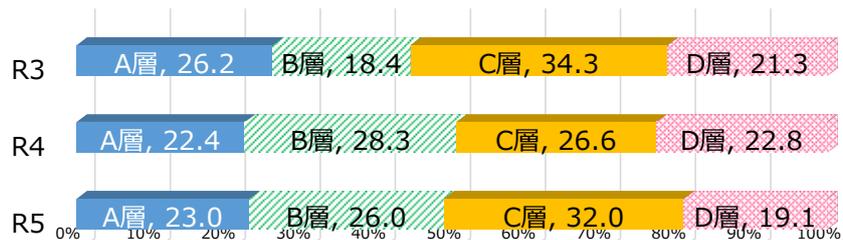


D層経年【中学校】

(全国値との差)



R3~5 中学校数学 (高知県)

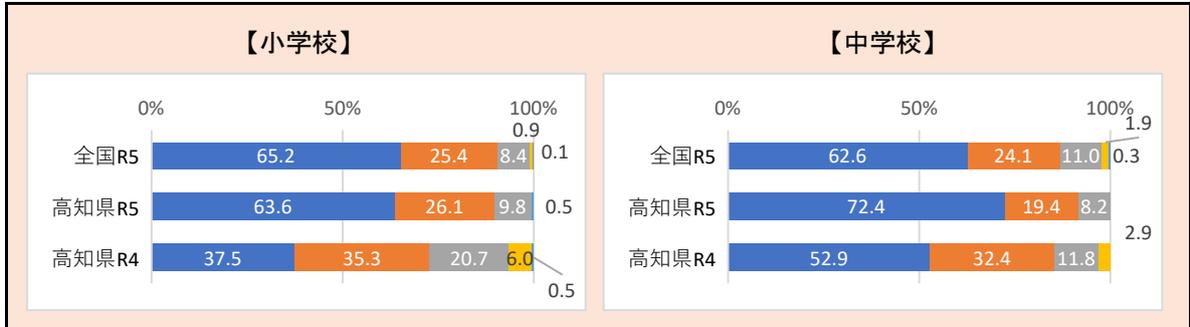


ICTを活用した学習状況

学校 質問紙	(55) (63)	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
-----------	--------------	---

高知県（経年）

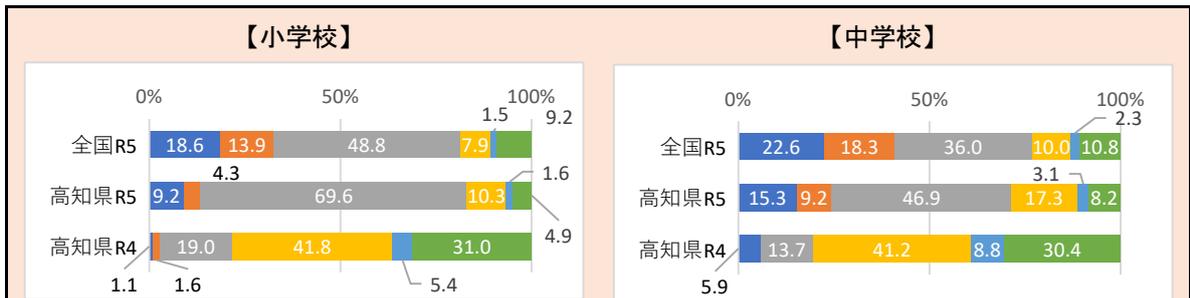
■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満



学校 質問紙	(63) (71)	児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか
-----------	--------------	--

高知県（経年）

■ 毎日持ち帰って、毎日利用させている ■ 時々持ち帰って、時々利用させている ■ 持ち帰らせていない ■ 持ち帰ってはいけないこととしている ■ 毎日持ち帰って、時々利用させている ■ 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている



児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した学校の割合は、令和4年度と比較すると上昇したが、小学校9.2%、中学校15.3%とともに全国より低くなっている。

質問紙調査から見られる課題（英語）

学校における言語活動の取組状況

【学校の指導状況】

■よく行った ■どちらかといえば、行った
■あまり行わなかった ■全く行わなかった

【生徒の受け止め】

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

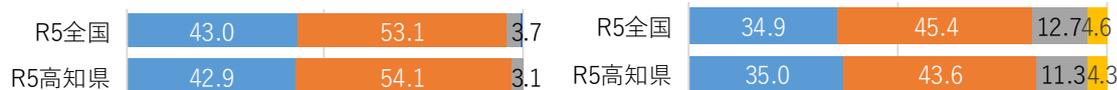
聞く

英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか



読む

英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか

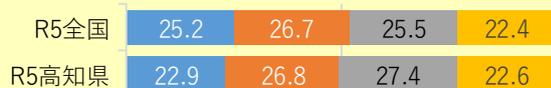


書く

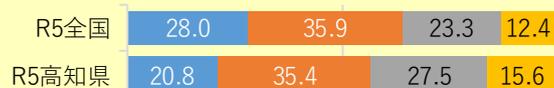
自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったか



【生徒】英語の勉強は好きですか



【生徒】英語の授業の内容はよくわかりますか



学校における言語活動の実施状況は、全国と同様もしくは全国以上であり、生徒の受け止めも概ね良い。しかし、英語に対する生徒の意欲や理解度は低く、乖離が見られる。

➡ 生徒へのフィードバック・評価が不十分なのではないか。生徒は、自分自身の英語力を把握しづらい状況があり、英語に対する自信が持てていないのではないか。

授業以外の取組状況

英語の授業以外にも、日常的に英語を使う機会があったか

【学校の指導状況】

■ほぼ毎日 ■週に数回以上 ■週に1回程度 ■月に1回程度
■年に数回程度 ■設けていない

【生徒の受け止め】

■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない
■その他 ■無回答



家庭学習の課題（宿題）として、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行ったか

【学校の指導状況】

■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回程度 ■月1回程度 ■月1回未満 ■全く行われていない

【生徒の受け止め】

■ほぼ毎日 ■週3回以上 ■週1回程度 ■月1回程度 ■月1回未満 ■行っていない



日常的に英語に触れる機会の創出を学校組織全体で取り組むとともに、家庭学習を含め、デジタル技術を活用した取組を推進していく必要がある。

高知県における不登校の状況について

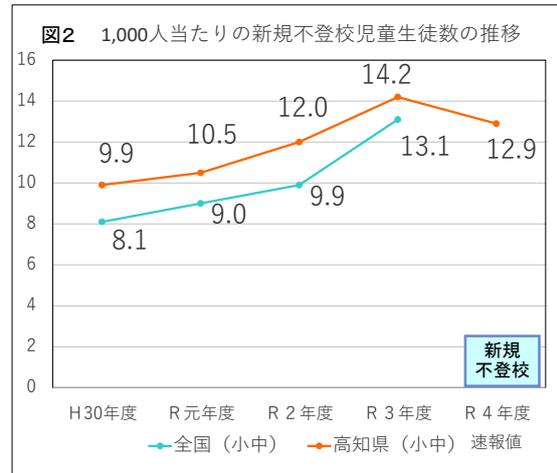
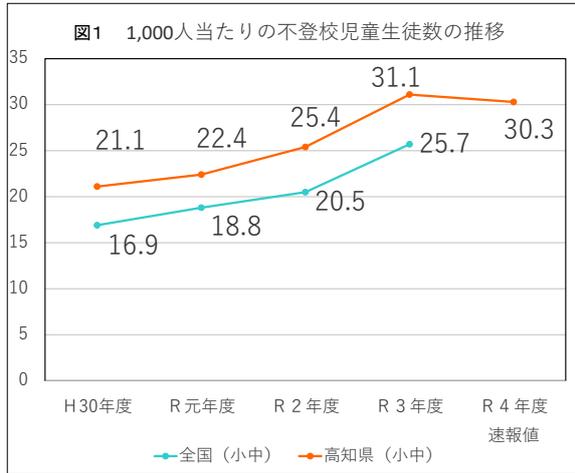
資料1

人権教育・児童生徒課

※下記の図の数値については、「高知県生徒指導上の諸課題・児童虐待に関する調査」及び「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」（文部科学省）によるものである。

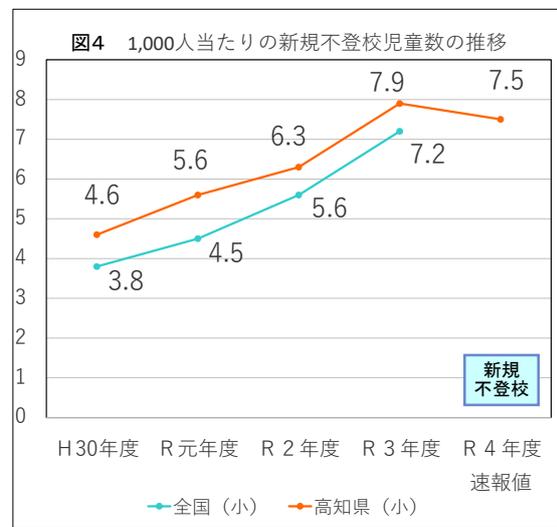
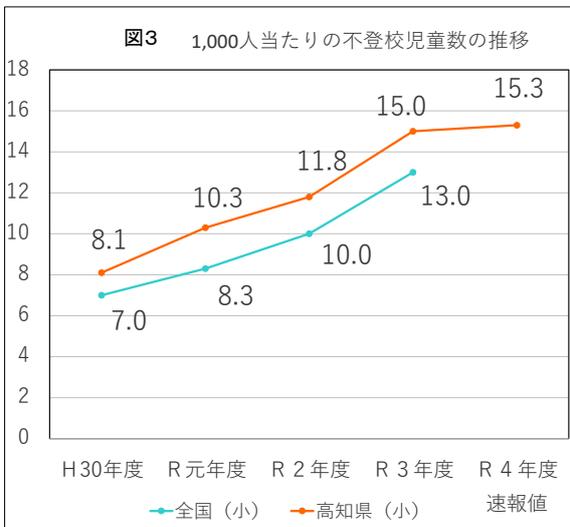
1. 小・中学校における不登校児童生徒数の推移（高知県：公立学校・国：国公立学校）

単位：人



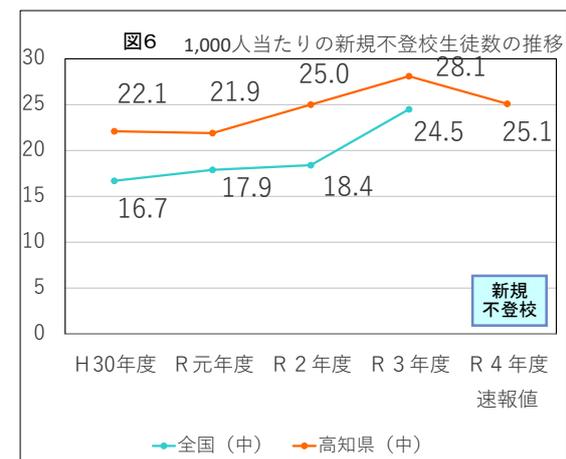
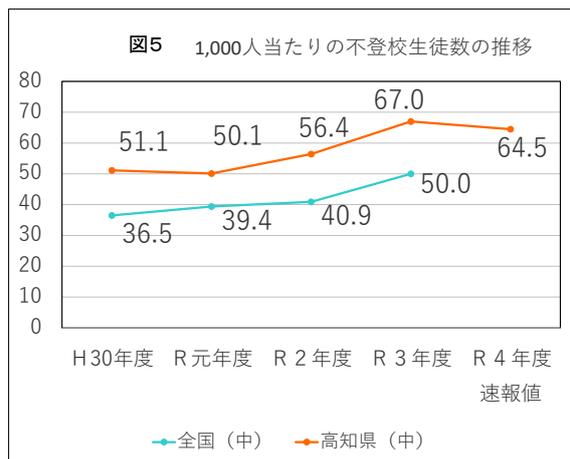
2. 小学校における不登校児童数の推移（高知県：公立学校・国：国公立学校）

単位：人



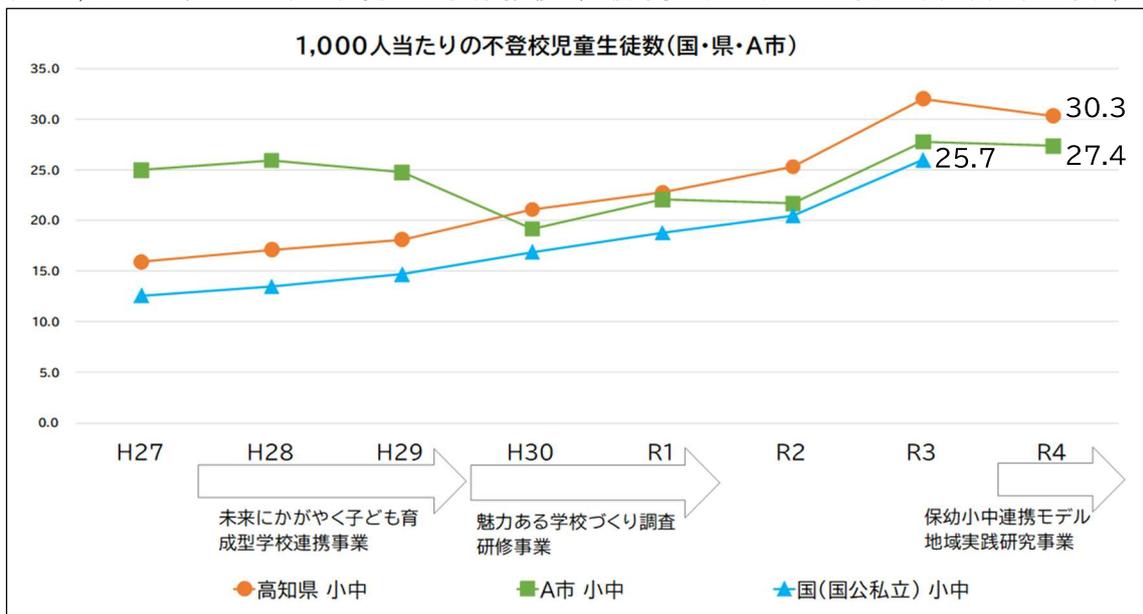
3. 中学校における不登校生徒数の推移（高知県：公立学校・国：国公立学校）

単位：人

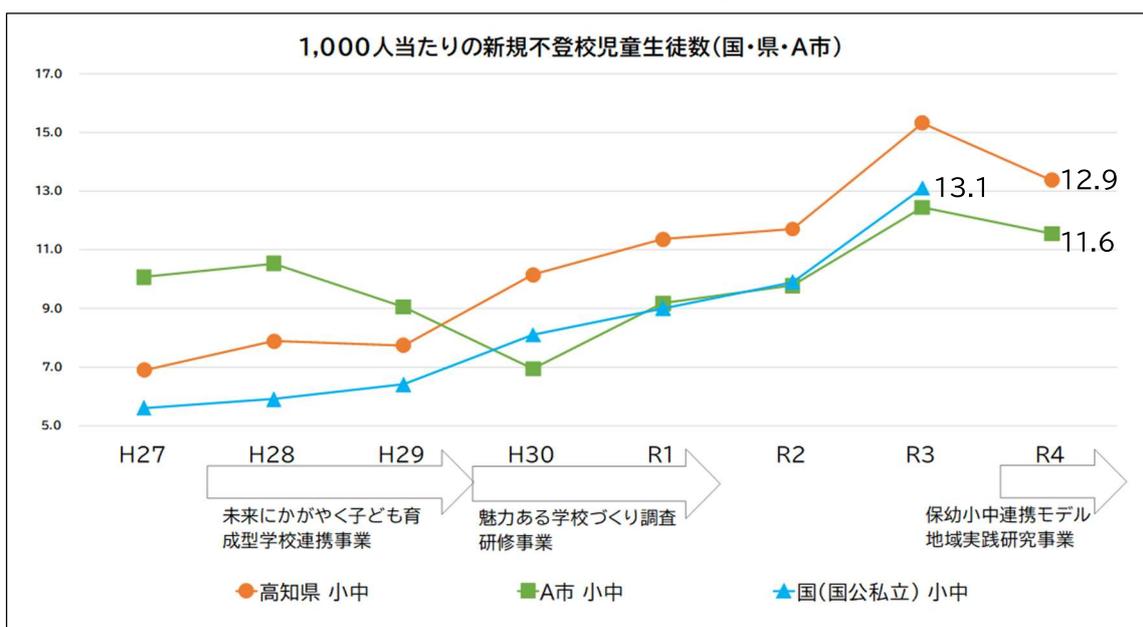


福祉部署や校種間連携による不登校の未然防止の成果

1. A市の1,000人当たりの不登校児童生徒数推移（比較対象 高知県：公立学校・国：国公立学校）

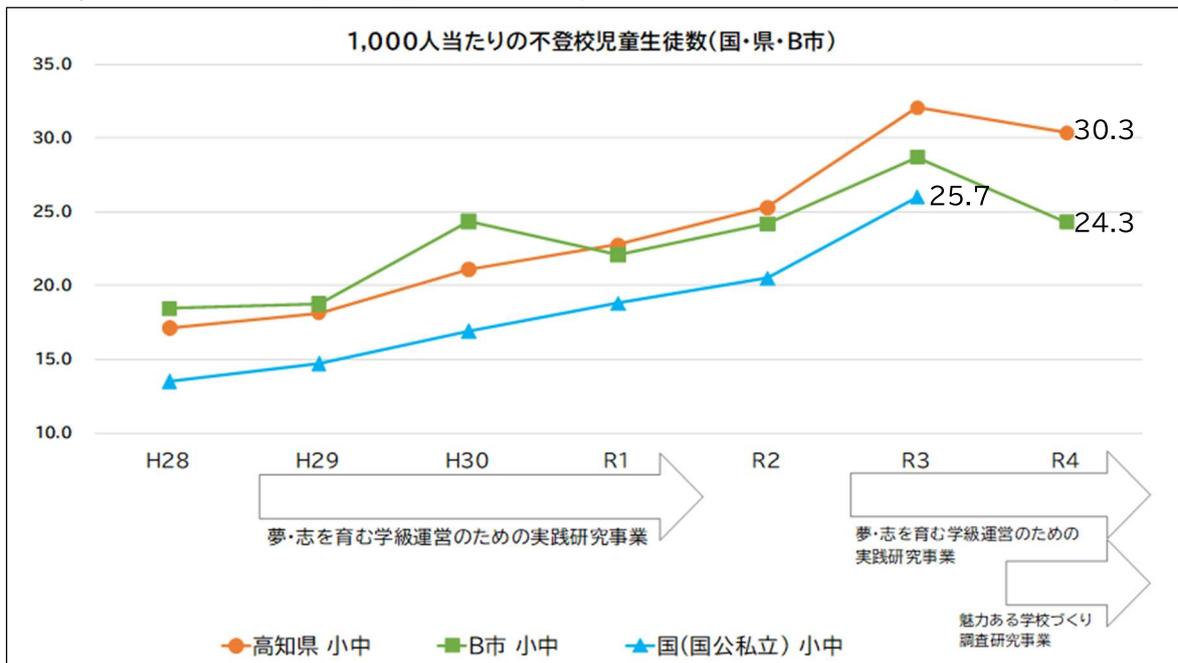


2. A市の1,000人当たりの新規不登校児童生徒数推移（比較対象 高知県：公立学校・国：国公立学校）

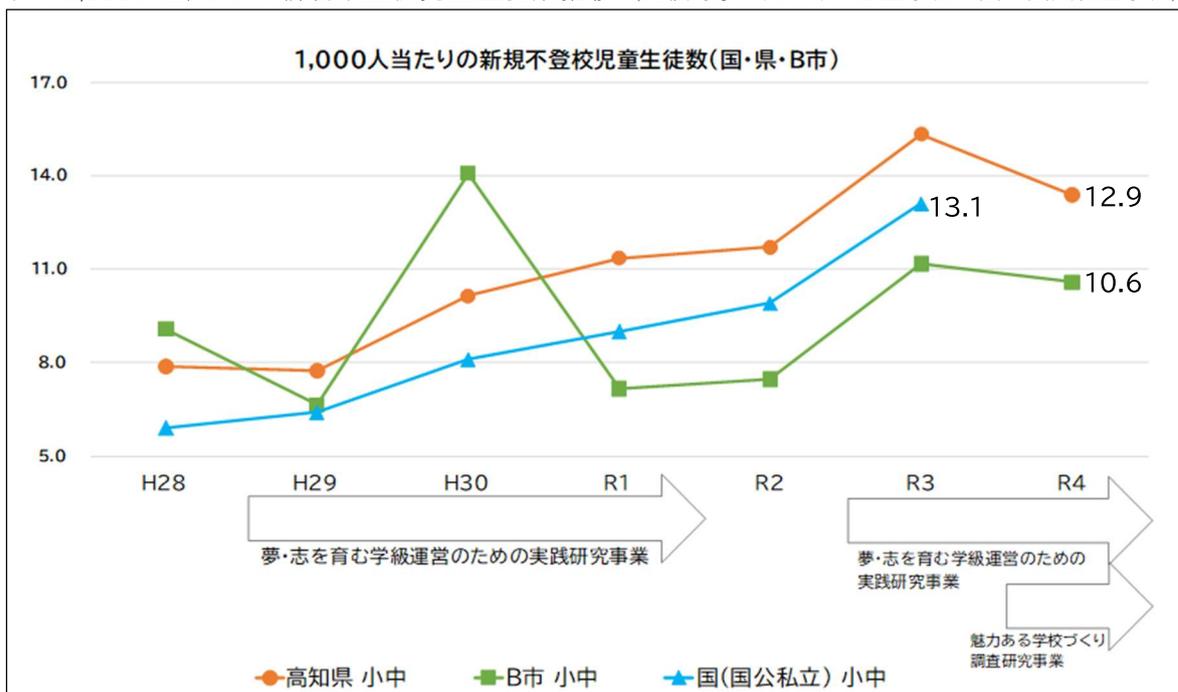


福祉部署との連携	福祉部署主催のケース会にSSWが参加し、園・学校の子どもの情報共有	12回
	福祉部署の保健師等と連携し、家庭訪問等の協働	42回
保幼小の引継ぎ	就学時引継ぎシートを使っての合同支援会の開催	各小学校1回
	園の情報をSSWが小学校へ引き継ぐ	適宜
小中の引継ぎ	小中合同支援会の実施	各中学校1回
校内支援会の充実	SSWの校内支援会への参加	159回
中学校区の協働	3部会(授業研究、学級経営、子ども支援)での実践研究	18回
	全教職員(保幼小含む)研修会の実施	10回

3. B市の1,000人当たりの不登校児童生徒数推移（比較対象 高知県：公立学校・国：国公立学校）



4. B市の1,000人当たりの新規不登校児童生徒数推移（比較対象 高知県：公立学校・国：国公立学校）



市教委の取組	関係機関を招集し市全体の意識調査分析を実施・方向性の決定	4回
	各校の担当者を招集した魅力担当者会、未然防止の取組の計画立案	4回
	校内支援会に保健師が参加、学校へ情報提供、連携・協働	50回
	重篤なケースのケース会には医療等の関係機関と連携・協働	12回
モデル中校区	「校区担当者会」で中学校区での一貫した取組のPDCAのCAの実施	4回
	モデル中校区での小中連携・小小連携等の合同研修会	5回
	モデル中校区での小中乗り入れ授業の実施	70回

R3→R5不登校事業配置校22校の状況（7月末：10日以上欠席）

資料3

		不登校出現率（％）			新規不登校出現率（％）			
		R3 (7月末)	R4 (7月末)	R5 (7月末通帳値)	R3 (7月末)	R4 (7月末)	R5 (7月末通帳値)	
小学校	高知市以外	a小学校	1.01	2.57	3.30	0.34	0.86	1.22
		※b小学校	0.87	0.64	0.41	0.00	0.21	0.00
		※c小学校	0.52	0.40	0.78	0.26	0.13	0.78
		d小学校	1.88	4.88	0.40	1.13	1.22	0.40
		※e小学校	0.86	0.00	0.00	0.86	0.00	0.00
		f小学校	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		※g小学校	0.67	0.96	1.63	0.33	0.32	0.98
	高知市	h小学校	0.35	1.13	0.00	0.18	0.19	0.00
		※i小学校	2.65	2.51	1.39	0.29	1.57	1.04
		※j小学校	0.99	2.06	1.81	0.99	0.59	0.15
		※k小学校	0.75	1.32	0.00	0.38	0.75	0.00
	小計	高知市以外小計	0.84	1.12	1.11	0.40	0.35	0.57
		高知市小計	1.03	1.70	0.82	0.51	0.68	0.20
		配置校小計	0.92	1.36	1.00	0.45	0.49	0.43
県全体小計		0.99	1.06		0.48	0.40		
県全体と配置校の差		-0.07	0.30		-0.03	0.09		
中学校	高知市以外	※A中学校	4.06	5.34	4.26	1.22	1.44	0.78
		※B中学校	5.26	3.36	3.57	1.00	1.03	0.27
		※C中学校	4.31	3.69	5.44	0.86	1.17	0.73
		※D中学校	6.13	7.03	7.88	0.77	2.34	0.00
		E中学校	5.04	5.29	2.81	1.86	1.11	0.28
		※F中学校	7.75	6.62	4.41	0.70	0.00	0.00
		※G中学校	5.24	5.30	4.46	1.83	1.45	1.41
	高知市	※H中学校	5.11	5.12	5.99	0.73	1.40	0.69
		※I中学校	8.14	9.76	5.26	2.33	0.00	0.53
		※J中学校	7.68	9.57	10.24	3.07	1.88	2.17
		K中学校	3.92	2.27	8.12	0.84	0.00	2.03
	小計	高知市以外中計	5.01	4.89	4.59	1.21	1.29	0.62
		高知市中計	6.09	6.55	7.85	1.78	1.08	1.49
		配置校中計	5.40	5.49	5.78	1.42	1.21	0.93
県全体中計		5.49	5.27		1.55	1.18		
県全体と配置校の差		-0.09	0.22		-0.14	0.03		

※印は、昨年度まで不登校担当教員配置校サポート事業又は不登校支援推進プロジェクト事業の指定を受けていた学校

【指定校の現在の取組状況】

- 多くの学校で、校区内の情報共有の方法や様式の統一、校内支援会の相互乗り入れなど、担当教員を中心に具体的な取組を行うための体制作りができてきている。
- 校区内の管理職同士で小中連携の在り方について定期的に協議し、取組の方向性を揃え、組織立った取組となるよう意識の高まりが見られる学校が増えてきた。
- 指定校の取組を広げるため、所管する教育委員会が、校長会や教員研修を開催し、指定校の取組が域内全体に浸透するよう取り組む積極的な姿勢が見られる。
- 中学校において、小中連携の取組に対する理解や意識の高まり等、校種間差が見られた。
- 小中連携の取組の効果検証の方法について、具体的なイメージが固まっておらず、校区内で共有されていない学校も見られた。

高知県不登校児童生徒の多様な教育機会の確保に関する協議会について

1 協議会の趣旨

教育機会確保法や国の不登校施策の方向性をふまえ、本県における不登校児童生徒を学校や家庭、地域社会で支援する仕組みや多様な教育機会確保策について検討し、協議された内容については、本県の不登校施策等に反映させるもの。

2 委 員

生徒指導提要改訂協力者会議副座長、大学教授、学校長、市町村教育委員会、教育支援センター、フリースクール、NPO 等（9名）

3 協議の取りまとめ

- ・協議会で出されたご意見等は、「第3期教育等の振興に関する施策の大綱」等に反映する。
- ・協議会で出された意見等のうち、すぐに実施できるものは速やかに施策等に反映する。
- ・協議会の最終取りまとめとして、「児童生徒の学校以外の場での学びを支援するためのガイドライン」を作成する。

4 今後2年間の協議会のスケジュール（予定）

R5	第1回 (6月)	・本県の不登校の現状と施策 ・今後の不登校施策の方向性について
	第2回 (8月)	・今後の不登校施策の方向性について（第1回の論点を整理して協議）
	第3回 (10月)	・心の教育センターのあり方について
	第4回 (12月)	・不登校特例校の設置
R6	第5回 (6月)	・教育支援センターの機能強化
	第6回 (8月)	・夜間中学や公民館・図書館等を活用した子どもの多様な学びの場、居場所の確保
	第7回 (10月)	・協議の取りまとめ、ガイドラインの作成①
	第8回 (12月)	・協議の取りまとめ、ガイドラインの作成②

※日程、内容等については変更となる場合があります。

(保幼小連携・接続の重要性)

幼児期 (学びの芽生えの時期)
幼児教育 = 「遊び」による総合的な指導

架け橋期 (年長児~小1)

児童期 (自覚的な学びへと発展する時期)
小学校教育 = 教科等の学習を中心とした指導



子どもたちの成長を切れ目なく支えるため、調和のとれた教育を双方で展開することが必要

→これまでの保幼小連携・接続の取組は、行事を通じた交流などが中心となっており、子どもたちの資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施までには至っていない状況

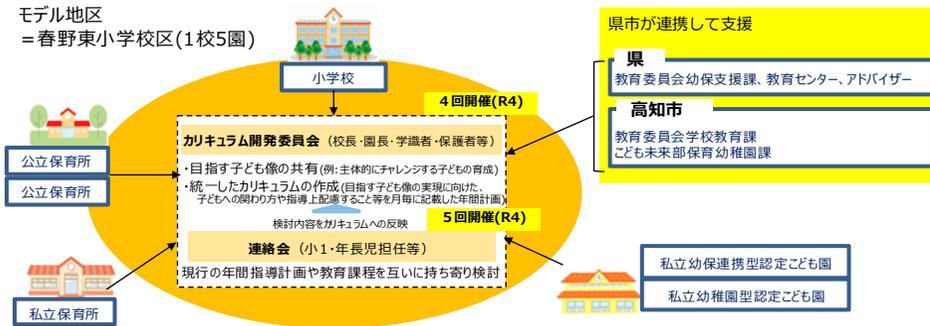
→本県の教育課題を未然に防ぐ基盤を強化していくうえで、**就園児のほぼ半数を占める高知市との連携がきわめて重要**

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- ①健康な心と体
- ②自立心
- ③協同性
- ④道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤社会生活との関わり
- ⑥思考力の芽生え
- ⑦自然との関わり・生命尊重
- ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現

1. 高知市・県の連携によるモデルづくり (R4~)

高知市内の1小学校区において、モデル的に「架け橋期のカリキュラム」づくりに取り組み、高知市と県の関係課が連携して支援する新たな事業を開始
文科省が全国19地域で展開する「保幼小の架け橋プログラム事業」を県が受託して実施。



「めざす子供像」の実現に向け、0~12歳を一貫した教育でつなぐ

成果

- ◎ 校長・園長、担任同士が、互いの教育内容を話し合うことで
 - 1) 「架け橋期のカリキュラム」が完成 (R5からはカリキュラムに基づく実践・検証・改善を支援)
 - 2) 保育者・教員双方に様々な気づき生まれ、実践に反映され、子どもの姿に還元される事例が現れてきている



<モデル地区の声>

- (年長児担任)
 - ・他園の保育を知ることで、自園の年長児に経験させたいことが見えてきた。
- (園長)
 - ・送り出した子どもの入学後の育ちを知ることで自園の保育の振り返りになった。
 - ・「学校ってめっちゃ楽しい」と報告に来た卒園児がいた。今までになかったこと。
- (小1担任)
 - ・年長児の園での経験を元に授業を発展させた。1年生は1から教えないといけないと思っていたが、園での経験を元に子どもの意欲を大事にすることを学んだ。
- (校長)
 - ・教員の子どもたちを受け入れるスタンスが変わった。
 - ・本年度の1年生は学校になじみが早く、すごく元気で欠席も少ない。

2. 県内全域への普及に向けた取組 (R5~)

モデル地区に準じた取組 (子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合い、一緒にカリキュラムを作る取組) 普及に向けて (上半期)

◎ 市町村教育長会議での働きかけ (4月)

全国的な専門家(大豆生田啓友氏)による幼児期の教育の重要性に関する講演会を開催 (すべての市町村保育主管課も参加)

◎ 取組手順例を活用した働きかけ (5月~)

モデル地区の取組を踏まえ、5段階からなる取組手順例を作成し、各研修や個別訪問により働きかけ

- ・市町村教育長等訪問 (いの町・四万十市・香南市)
- ・市町村主催研修での周知 (南国市、須崎市、土佐町、津野町、四万十町、三原村)
- ・教育センター主催の園長等管理職対象研修での周知
- ・関係団体を通じた周知

■ 取組手順例 (概要)

- 1 市町村における意思決定
- 2 園・校との合意の形成
- 3 市町村による「話し合い」の体制整備
- 4 「子どもをまんなかにして互いの教育内容を話し合う」取組開始
 - (1) 校区内の「めざす子ども像」を決める
 - (2) 「幼児期の終わりまでに~姿」などを手掛かりに、育みたい力を共有する
 - (3) 互いの教育内容を話し合う
 - (4) 話し合いを踏まえてカリキュラムを一緒に作る
- 5 カリキュラムを実践・評価・改善する取組の定着

◎ 保育者・小学校教員対象の研修 (4, 7, 8月) <モデル地区の実践発表等>

保育者305名、小学校教員56名、その他(保育主管課・学校関係者)38名 参加 (計 399名)

県内各地の動き

- 地域の実情に応じた形で取組がスタート
 - いの町 : 「いの町令和の教育ビジョン」に基づき、幼児教育と義務教育をカリキュラムでつなげる取組をスタート
 - 四万十市 : 0~18歳までを見通した子どもの育成方針「四万十市保幼小中連携カリキュラム」の策定作業を部局横断的にスタート
 - 香南市 : (R4年度より実施) 保幼小中連携を強化し不登校対策を総合的に推進
- 取組の検討がスタート (「架け橋期のカリキュラム」に関する研修の講師依頼が県教育委員会にあった市町村)
 - 南国市、須崎市、土佐町、津野町、四万十町、三原村

(下半期)

◎ 架け橋期カリキュラムシンポジウム (12/26)

- ・ 保育者・小学校教員・園長・校長・市町村職員等を幅広く対象として開催
- ・ 文科省幼児教育調査官による本県の取組を踏まえた講演、全国的な専門家(神長美津子氏)らによるパネルディスカッション等

◎ 保育者・小学校教員対象の研修 (2月)

◎ モデル地区の実践を収録したDVDの作成・配付 (3月)

カリキュラム作成から実践・改善に向けた話し合いの様子や実践を収録し、県内全園・小学校・市町村に配付し、モデル地区に準じた取組の開始を働きかけ

高知市・県のさらなる連携強化を通じて、県内全域への普及の加速化をめざす